

2025年9月～



中山さんと仲間たち

おもちゃ支援

石川県在住の中山さん（90歳）を中心とした有志がウクライナの子供達に木製遊具を届けようと奮闘してくれています。おもちゃはウクライナの子供達が塗って遊んでいます。

愛媛県在住の中矢さんは今まで愛媛県内の子ども達が集めたおもちゃを送り続けてくれています。今まで届いた段ボールの数は83となりました。

おもちゃは空腹も満たせませんし、冬の暖にもなりません。しかし確実に子ども達の心を温め、日本とのつながりを感じる貴重な機会となっています。



2025年9月～

平和は待たずに作るもの

ウクライナ支援報告



ウクライナ西部への大規模攻撃

11月25日の夜、西部の街テルノーポリ（人口22万人）の集合住宅に空襲があり、70人以上（うち子ども15人）が負傷、25人が死亡（うち子ども3人）。

今回の攻撃で35歳の母親と共に犠牲になったソフィアちゃんはわずか4歳。戦争の世界しか知らずしてこの世を去りました。こんな悲劇が日々続いているウクライナ。戦争もまもなく丸4年となります。ウクライナの子供達に対し、そして侵略をやめさせるため、私たちには何ができるのでしょうか。

続く教育支援

2025年の年末にかけても教育支援が続きました。今までに配布されたノートは1万9500冊になり、その他にも消しゴムやプリンター、パソコンなどの支援が届きました。下の写真はジトームル州の医療専門学校の学生たちに届いたノートです。



2025年9月～

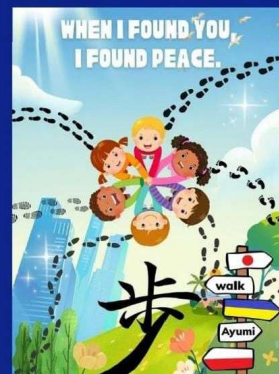
教育支援

今年は3種類のノートを作成し、ウクライナ国内の子ども達、ポーランド、リトアニアに避難している子ども達に配布しました。「歩ノート」2000冊の一部は12月の初めにあった聖ニコラの祝日に合わせて、小さなクリスマスプレゼントとしてウクライナの子ども達に届けられました。

10月には本プロジェクトを支えてくださっている菅野さん、本間さんと共にポーランドにあるウクライナの子ども達に通う学校を訪問。ノートと共に、温かい靴下などを子どもと先生たち全員に届けていただきました。



小学校訪問



「歩ノート」
ウクライナの子ども達が前を向いて歩み、その過程での出会いを糧に成長して欲しいという願いを込めて



2025年9月～

戦時下の美術教育

2025年には今まで支援を続けてきたスーミィ州の美術学校との大きな協力が始まりました。今まで学校には大量の布キャンバスや浴衣、絵の具、パソコンなどの支援を入れてきました。その後、日本で「ウクライナの子ども達の巡回絵画展」が行われていることを伝えたところ、年末に子ども達の絵画57作が届きました。ウクライナで描かれた絵はポーランドで展示具を設置し、日本に郵送。来年以降展示会に使っていただければと思っています。一部の絵画を下に紹介します。



校長先生と先生方





スポーツ 支援

キウ市にある空手道場では戦争で足を失ったトレーナーが帰還後に指導に当たっています。スームィ州でも戦争で負傷した人々のリハビリのためスポーツをする機会が設けられています。そんな施設に対するスポーツ用品、発電機などの支援を届けています。



2025年9月～



車いす対応車両

12月にはスームィ州で車いす生活を余儀なくされた人々の移動を支援するため、オランダから車いす対応車両を手配。これでウクライナ支援として届けた車両の数は15台となり、内訳は救急車が5台、物資や負傷者の運搬車が6台、そして車いす対応車両が3台、通学バスが1台です。

車両には物資を大量に詰め込みましたが、その中には犬や猫の餌600キロ、発電機、ノート、衣類、おもちゃなどが含まれています。年内に物資運搬車両をもう1台手配できるかもしれません。



小学校訪問



物資はスームィ州にて学校、病院、孤児院などに届けられます。引き続き、車両支援の依頼が届いています。